



韓国KT Corp.のIP-TVサービス準備状況

🕒 記事のポイント

サマリー 2006年4月号「韓国におけるIP-TV実現に向けた議論の動向」では、通信事業者の自営IP網（閉域網）による加入系サービスとしてのIP-TVサービス（地上波同時再送信を含むIPマルチキャスト放送）実現に向けた政策・制度関連の議論について紹介した。本稿では、同サービスの実現に向けた主要通信事業者の中心に位置するKTのIP-TVサービス準備状況について紹介する。

主な登場者 KT

キーワード IP-TV IPマルチキャスト IPメディア HomeN ホームネットワーク

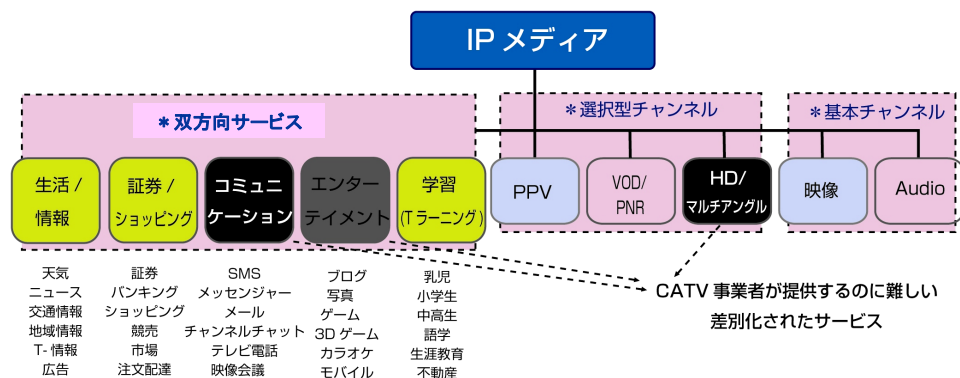
地域 韓国

執筆者 KDDI総研 制度・政策調査室 河村 公一郎 (ko-kawamura@kddi.com)

1 IPメディアサービス

現在、KTは放送業界を刺激しないよう、IP-TVサービスという直接的表現を使わず、「IPメディアサービス」という広めの表現を使っている。IPメディアサービスのなかには、双方向の通信サービスも含まれる（図表1参照）。

■図表1 KTのIPメディアサービスの内訳



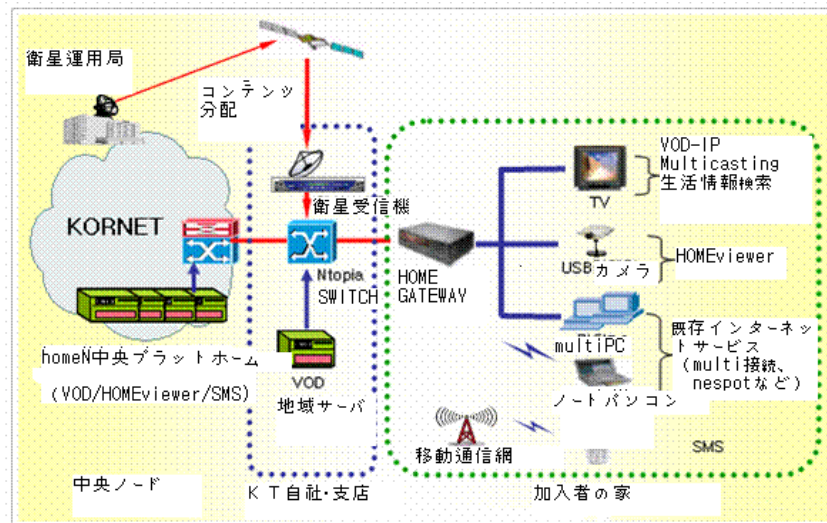
出典：KDDIコリア調査報告（2006.2.24）

原典：KT資料（ワークショップ「IP-TV市場の展望」（2006.2.15））

さらにIPメディアサービスは、KTのホームネットワークサービス[☞]（脚注1）（ブランド名：HomeN）の一構成要素としても位置づけられる。

HomeNが包含するその他のサービス要素は、現在すでに商用化されている例としては、見過ごした地上波番組をオンデマンドで視聴できるサービスを含むIP-VOD（=IPユニキャスト）、Homeviewer[☞]（脚注2）、ショートメッセージサービスがある。また、今後追加されるサービスの例としては、HomeNmanager[☞]（脚注3）がある。（図表2参照）

■ 図表2 KTのHomeNの構成イメージ図



（図注） HomeNのアクセス回線は、KTのDSL（ブランド：Megapass）である。
出典：KDDIコリア調査報告（2006.2.24）



☞（脚注1）

KDDI総研R&A2004年11月号「KTのホームネットワークサービスにおける映像配信サービスの展開」（斎藤）〔http://www.kddi-ri.jp/ja/r_a/pdf/KDDI-RA-200411-04.pdf〕を参照。HomeNの加入者は、2005年末現在で、約30,000である。

☞（脚注2）

外出先からHomeNのホームページにアクセスすると、セットトップボックス（Home Gateway）に接続されたUSBカメラ経由で自宅内部を見ることができる。月次基本料4000ウォン（約485円）が必要。

換算率：100ウォン=12.13円（2006.5.1東京市場TTMレート）

☞（脚注3）

外出先から携帯電話を利用して、自宅のガスの元栓を閉める、エアコンを始動する、玄関に設置された監視カメラ経由で訪問者を確認しドアを開閉する、などを実現するサービス。

1-1 IPマルチキャスト放送サービスの準備過程

KTは2005年12月、ソウルの汝牟島（ヨイド）にデジタルメディアセンター（DMC）を完成させた。また、2006年2月には、IPマルチキャスト放送も可能とするセットトップボックス（Home Gateway）開発の公示を実施、開発希望事業者の受付を完了した。

これにより、地上波の同時再送信を含むIPマルチキャスト放送サービス提供のための準備はすでに相当程度整っている。図表3に準備過程を年表で示す。

■図表3 KTのIPマルチキャスト放送サービス準備に係わる年表

時期	内容
2003年	IPによる総合サービスの実現に着手
2004年6月	ソウルと一部の首都圏で、VOD中心のHomeNの試験サービス（一定の評価期間を経て商用化）を開始
2005年5月	グループ内のコンテンツ事業戦略とコンテンツ事業者との戦略的提携について協議する場として、KTグループ・コンテンツ事業協議会を発足
2005年6月	子会社KTFが、映画配給会社ShowBoxの映画ファンドに80億ウォン（約9.7億円）を投資
2005年9月	韓国最大の映画製作会社SIDUS FNHの51%を増資の形で取得
2005年12月	IPマルチキャスト放送の試験サービスに向け、ソウルの汝牟島（ヨイド）にデジタルメディアセンター（DMC）を開設
	IP-TV（IPマルチキャスト放送）を含む包括的呼称として、「IPメディア」を採用
	マスコミに対して、IPメディアサービスを公開試演
	ソウルの江南、新村、木洞、京畿の盆唐に住む役員の家（35世帯）に対してIPメディアサービスの試験サービスを提供
2006年1月	シンハン銀行と協力し、IPメディアサービスの一環としてのTVバンキングの試験サービス開始（注1）
2006年2月	コンテンツ確保のための投資予算を770億ウォン（約93億円）から1400億ウォン（約170億円）に上方修正
	コンテンツ事業子会社のKTHが、映画チャンネル事業者のOCN、映画/DVD専門事業者のKDメディアと映画配給事業で提携
	ビョルモア・エンターテインメント、サンハ・フィルムと映画製作で提携
	IPメディアサービスの本格提供に向け、セットトップボックス（Home Gateway）開発を公示、開発希望事業者からの受付完了
2006年3月	開発事業者の選定（2月時点の予定）（注2）

(表注1)

電子金融サービスのアウトソーシング請負事業者であるバンクタウンのプラットフォーム（バンキングゲートウェイモデル）を適用したもので、口座照会、振込み、公課金納付など、主要な電子金融サービスを整えた。国民銀行、農協、ハナ銀行とも協議中。なお、KTは、リアルタイムでの株式注文（T-トレーディング）、商品・コンテンツの購入（T-コマース）との連携サービスも推進中である。

(表注2)

このSTBは、IPマルチキャスト放送サービスも可能とする一般家庭用の装置である。KTのRFPには、大手の三星電子、LG-Nortel、ヒュメックスやセルロン等のSTB専門ベンダーに加え、新規の機器ベンダーも加わった。

結果的には、三星電子、LG-Nortel、ヒュメックスが選定された。

参考資料： KDDIコリア調査報告（2006.2.24）

1-2 IPメディアサービスのデモ

KTは2005年12月27日、ソウルの汝牟島（ヨイド）にあるデジタルメディアセンター（KTメディアセンター）で記者を対象に、多様な双方向サービスを含むIPメディアサービスを初めて公開デモを行った。デモ内容を図表4に示す。

■図表4 KTによるIPメディアサービス公開デモ（2005年12月）の内容

種別	内容
双方向サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ T-インフォメーション（ニュース、天気予報など） ・ T-コマース（バンキング、株取引、商品注文（注）） ・ T-コミュニケーション（SMS、メッセージメール） ・ T-ラーニング（オンデマンド型教育サービス）
映像系サービス	VOD、多様なチャンネルを一覧できる電子番組表（EPG）

(表注)

ショッピングチャンネルを利用し、リモコンで購入操作を行うと、本人の携帯電話に自動メッセージが伝送され、本人が携帯電話から住民登録番号を入力し、本人確認がなされれば、注文が成立し商品が配達される。固定・携帯連携の一例といえる。

また同日、KTはソウルの江南、新村、木洞、京畿の盆唐に住む役員の家（35世帯）に対してIPメディアサービスの試験サービスを提供した。マスコミに対するデモ同様、サービス内容はVODと双方向サービス中心のものであった。

以上のように、今般のデモ、試験サービスには、「法制度上の解決を待たなければならない地上波同時再送信」には当たらない種類のIPマルチキャスト放送も含まれなかった。

これには、「IPマルチキャスト放送の試験サービスを提供するからには、当初から放送事業者もしくは放送チャンネル使用事業者の番組の同時再送信が含まれなければ、消費者の期待に悪影響を及ぼしかねない」とのKTの慎重な判断が働いているものと解釈される。

【コラム①】 KDDIコリアによるHomeN (VODサービス) 実加入評価 (参考)

KDDIコリアでは、KDDI総研からの委託にもとづき、2005年末から2006年初めにかけて、HomeN-TVにおけるVODサービスの実加入評価を実施した。以下にそのポイントを記述する。

(1) 料金

VODサービスに係わる主な料金を下表に示す。

■HomeN-TVのVODサービスに係わる料金

項目	金額
回線費用	Megapass回線初期費用：30,000ウォン (約3,640円) 同月次基本料：40,000ウォン (約4,850円)
初期費用 (設置費)	24,000ウォン (約2,910円)
機器費用	STB：270,000ウォン (約32,800円) (注1)
月次基本料	11,000ウォン (約1,330円) (注2)
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・最新映画：1,400ウォン (約170円) / 48時間 ・ケータイ着メロ：250～500ウォン (約30～60円) / 件 ・ケータイPhoto：同上 ・SMS：20ウォン (2.4円) / メッセージ ・英語講座：20,000ウォン (約2,430円) / 月 ・資格講座：20,000～40,000ウォン (約2,430～4,850円) / 月 ・文化公演：3,000ウォン (約360円) / 月 ・小中高等教育：20,000ウォン (約2,430円) / 月 ・上記以外のコンテンツは無料
割引サービス	3年以上契約の場合、15%割引

(表注1) Homeviewer用監視カメラを付加すると、追加で180,000ウォン (約21,800円)

(表注2) Homeviewerサービスを付加すると、追加で4,000ウォン (約490円)

(2) コンテンツ

VODのコンテンツ数は128で、ジャンルとしては、地上波放送、映画 (最新映画は有料)、KIDS (漫画、学習、教育放送英会話、児童教育)、ニュース (国際ニュース等)、天気予報、スポーツ/趣味 (ゴルフ、囲碁等)、i-English (有料)、Wellbeing / 健康 (ダンス、ダイエット、旅行等)、地域情報 (電話番号、美味しい店等)、ピザ注文、ゲーム、アニメ、料理講座、小中高等教育 (有料)、資格講座 (有料)、YBM語学院の講座 (TOEIC、英語/中国語/日本語会話)、交通情報、などがある。

(3) 評価

①評価できる点

- ・既定時間帯に逃した地上波番組を自由な時間に選択して見ることができるため、会社員などにとっては魅力的なメディアである。親の時間の都合に合わせて、子供番組を子供に見せることもできる。
- ・地上波放送の月次料金は**2,500ウォン**（約**300円**）と安いので、地上波放送と並行利用しても負担は軽い。逃した地上波番組を公衆インターネット経由で見ると、1件あたり約**500ウォン**（約**60円**）かかるが、これに比べても月次**11,000ウォン**（約**1,330円**）は高くない。
- ・今後、地上波同時再送信が実現すれば、テレビ一台で、既存の放送だけでなく、パソコン機能、カラオケなどを利用できるため、他のメディアより有用。
- ・早送り、巻き戻し、途中停止箇所からの再生、最初からの再生などの機能は使い勝手が良い。

②要改善点

- ・画質については、インターネットサイトの放送よりは良いが、地上波放送より劣っている感じがする。（音声は既存の放送と遜色ない）
- ・起動に時間がかかり（1～2分）、リモコンの操作が複雑。
- ・途中で止まった場合、最初の画面から始めなければならない。
- ・最新映画やカラオケの最新音楽が足りない。

2 関連部門の方針

2-1 料金部門

KTは2005年12月、地上波同時再送信を含むIPメディアサービスをMegapassの付加サービスではなく、別立ての加入系商品として提供し、月次基本料を**20,000ウォン**（約**2,630円**）とし、オプションサービス毎にそれぞれの料金を追加する方式を採用するとの方向性を発表した。

これは、競合するCATVサービスの月次基本料が**18,000～22,000ウォン**（約**2,180～2,670円**）であることが勘案されたものである。^{☞（脚注）}



☞（脚注）

続いて2006年2月、KTメディア本部のユ・ヒガン本部長は、月次基本料**15,000ウォン**（約**1,820円**）という線もありうるが、設備投資などを考慮すると、**10,000ウォン**台の後半に決定されるだろうと述べた。（出典：KDDIコリア調査報告（2006.2.24））

2-2 コンテンツ部門

KTは関連会社Skylife[☞] (脚注1) がコンテンツの確保に難航した経験を通じて、コンテンツ開発の重要性を実感している。

KTはコンテンツ事業者との提携も選択肢として念頭に持っているが、コンテンツ専門子会社経由や、コンテンツ事業者への出資・買収によって、「KTグループでコンテンツそのものの製作能力を持つこと」を基本方針としている。

KTが重視するコンテンツのジャンルは、映画、音楽、ゲーム、教育の4つで、2005年初頭に組織したKTグループのコンテンツ事業協議会で決定した。映画は2005年9月にKTが株式の過半を買収したSIDUS FNH、音楽 (Dosirak[☞] (脚注2)) は携帯電話子会社のKTF、ゲームと教育は子会社KTH[☞] (脚注3) がそれぞれ担当している。

KTは映像系コンテンツの中では特に映画を重視しているようであり、2005年に過半を買収したSIDUS FNHを通じたコンテンツ確保がすぐには難しいため、KTHを介して映画チャンネル事業者のOCN、および映画/DVD専門事業者のKDメディアと映画配給事業で提携した。KTはWiBro、IP-TVなどの新サービスの普及に備えて、直接的、間接的に映画製作などのコンテンツ事業に重心を移しつつある。



☞ (脚注1)

SkylifeはKDB (Korea Digital Satellite Broadcasting : 韓国デジタル衛星放送) のブランド名称で、2001年1月、韓国唯一のデジタル衛星放送事業者として設立された。2002年3月から本放送が開始されており、KTが筆頭株主である。

<KDDI総研R&A2004年11月号「KTのホームネットワークサービスにおける映像配信サービスの展開」(斎藤) >

☞ (脚注2)

MYCOMジャーナルの電子ニュース (2005.10.24) によると、「DosirakはKTFによる音楽配信サービスで、国内外の音楽のストリーミングやダウンロードや携帯電話の着信メロディのダウンロードといったサービスを提供している。KTFのDosirak対応携帯電話か、Dosirak対応MP3プレーヤを通じてダウンロードした音楽を聴くことが可能だ。ストリーミングを45秒限定で聴ける無料サービスもあるが、フルストリーミングやダウンロードを行うには有料で、利用料は、最初の1カ月は5,000ウォン (約500円)、2カ月目以降は4,500ウォン (約450円) でサービスが使い放題、ストリーミングのみでは1カ月に3,000ウォン (約300円) で聴き放題となる」。なお、KTFにはNTTドコモが10%出資。

☞ (脚注3)

KTH (KT Hitel) は、KTが過半を出資するKTの子会社で、もともとパソコン通信事業を手がけていた。しかし、インターネットの爆発的な普及による事業環境の変化により、2002年頃より、コンテンツビジネスを中心とした事業への転換を行い、KTグループへのコンテンツ調達を統括している。同社の運営するポータルサイト“Paran” (2004年7月開設) は、韓国5大スポーツ紙の芸能・ニュース記事のコンテンツ配信をほぼ独占供給できる契約を各社と交わしており、高い人気を得ている。<出典は脚注1に同じ>

【コラム②】KT、デジタルシネマ市場参入へ

KTはデジタルシネマ[☞](脚注) 向けコンテンツ流通の有望性を見通し、チェーン専門店とデジタルシネマ事業を共同で行うべく、実務者レベルの検討が2006年2月末現在、仕上げの段階に入っている。デジタルシネマ関連機器（DLP方式プロジェクタなど）をKTが代理購入し、チェーン専門店で賃貸するとともに、コンテンツ伝送のためのネットワークインフラをKTが担うビジネス形態である。

デジタルシネマ鑑賞のためのプレミアム料金を、KTと実際のロードショーの専門店が分配する予定で、プレミアム料金は2,000～3,000ウォン（165～250円）の範囲で決定される見込みである。KTは具体的なサービス開始時期を流動的としているが、2006年内には提供可能と判断している。

📖 執筆者コメント

KTは、IPマルチキャストによる地上波同時再送信の実現（政策・制度の整備）を悲観視しておらず、放送事業者との交渉を含め着々と準備を整えている。韓国は実態的にみて通信・放送の融合の先進国といえるため、引き続き注視していきたい。

なお、「韓国におけるIP-TV実現に向けた議論の動向」「韓国KT Corp.のIP-TVサービス準備状況」に続くシリーズとして、次回では、「韓国Hanaro TelecomとDacomのIP-TVサービス準備状況」について紹介する。



☞ (脚注)

デジタルシネマについては、例えば日本のフジノン株式会社のホームページ (<http://www.fujinon.co.jp/jp/article/cinema/index-01.htm>) を参照されたい。

【執筆者プロフィール】

氏 名：河村 公一郎（かわむら こういちろう）
所 属：KDDI総研 制度・政策調査室
専 門：アジア地域の通信市場・業界に関する調査研究

最近の主な研究テーマ/レポート：

インドの電気通信業界概況
中国の携帯電話メーカー、通信機器メーカーについての調査研究
東南アジアの通信事業環境調査
ロシアの携帯電話市場概観

Email : ko-kawamura@kddi.com

電話 : 03-6716-1158

 出典・参考文献

- ・ KDDIコリア調査報告「韓国IP-TVサービスの地上波再送信に関する議論の現状及び今後の見通し」（2006.2.24）
- ・ KDDIコリア調査報告「IP-TV実加入調査票」（2006.1.24）
- ・ KDDIコリア定常調査報告
- ・ KDDI総研R&A2004年11月号「KTのホームネットワークサービスにおける映像配信サービスの展開」（斎藤）
(http://www.kddi-ri.jp/ja/r_a/pdf/KDDI-RA-200411-04.pdf)
- ・ MYCOMジャーナルのサイト
(<http://journal.mycom.co.jp/news/2005/10/24/042.html>)